

令和8年度第1回平塚市美術館協議会

■開催日時 令和8年8月28日(金) 14時00分～16時00分

■開催場所 平塚市美術館 研修室

■出席者 委員 吉村維元、高橋孝祥、靱山昌夫、桂山賢二、土屋浩明、
(敬称略) 田中伸一、清田靖子 <欠席者>小松誉
事務局 石川社会教育部長、加藤特別館長、小澤館長、勝山学芸担当長、江口学
芸員、家田学芸員、鈴木学芸員、上家管理担当長、平本主管

■傍聴者 なし

■会議の概要

1 開会

2 議題 (吉村会長進行)

(1) 令和8年度の事業報告及び事業予定について

・作品管理業務 ・展覧会 ・教育普及 ・その他の事業 ・施設利用者等の統計

(2) 今後のスケジュール

・改修休館後の引越や工事予定 ・休館中事業案

(3) その他

3 閉会

■議題及び質疑

(1) 令和8年度の事業報告

資料4について事務局から説明。

(質疑)

・女子美術大学との連携の経緯

委員 「花の表現、その多様性」展において、女子美術大学（以下「女子美」）とスタン
プラリー等の連携を行っているが、そのきっかけと今後の予定を伺いたい。

事務局 今回の展覧会で展示した寄託作品の中に堀文子氏の作品があったことが縁です。
同時期に女子美アートミュージアムでも堀文子展が開催されることから連携の提案を
いただき、実現しました。

スタンプラリーでは、堀氏の花の作品をモチーフに「線」と「色」のスタンプを両館
で重ねることで、1枚のポストカードが完成する仕組みを構築しました。これを機に、
教育普及分野でも協力関係が築かれています。

事務局 夏の「ワークショップまつり」でも連携し、女子美大学院生による「花の形からオ
リジナルハンカチを作る」プログラムを実施しました。これは大学院の授業の一環と
して実施したものです。現在は休館を控えているため具体的に次回の予定はありません
が、今回の連携を糸口に、今後も継続的な関係を築いていきたいと考えています。

・教育普及プログラムとアウトリーチの展開

委員 館外での活動（アウトリーチ）が増えている印象だが、これは休館を見据えた動き
か。

事務局 来年以降の休館中を見据え、試験的に進めている側面があります。できることから
少しずつ拡大し、休館中も活動を継続できるよう取り組んでいます。

・中高生ボランティアと SNS の活用について

委 員 中高生ボランティアが講師を務める講座が増えている理由は何か。

事務局 美術館と接点が少ない中高生層に参加してもらうため、試験的に、改編を続けながら実施しています。令和 6 年度からは夏のイベントのプログラムのひとつとして組み込んだため、延べの講座数が増加しました。また、近年は進学時にボランティア実績が重視される傾向もあり、参加希望者が増えていることも背景にあります。

委 員 若い世代の視点で SNS 発信をしてもらう「期間限定アンバサダー」のような取り組みはできないか。

事務局 SNS の有効性は認識していますが、公式アカウントの管理責任やリスク対応の面で、中高生に運用を任せるのは現時点では困難です。海外での年齢制限や国内の教育現場でのルールもあり、慎重に検討すべき課題と考えています。

委 員 課題は承知した。例えば、美術館が制作している「ぬいぐるみお泊まり会」のような YouTube 動画について中高生の感想を聞き、企画の参考にするといった交流も検討してほしい。

(2) 今後のスケジュール

資料 3、資料 5－1、5－2 について、事務局から説明。

(質疑)

・学校・教育現場との接点の維持

委 員 休館中に美術館という「場所」がなくなることで、学校現場との心理的距離が開くのが不安である。子供たちがリニューアルオープンを心待ちにできるようなプログラムを充実させてほしい。

事務局 学校との繋がりとは重要事項です。学校訪問や教員向け研修を継続し、駅のギャラリーホールを代替施設として積極的に活用してもらうよう働きかけます。ボランティアの育成研修も公民館等を利用して継続します。

・インバウンドと多言語化

委 員 リニューアルを機に、インバウンド（訪日外国人）も意識した国際的なアピールを強めてはどうか。

事務局 ウェブの情報展開の在り方を検討中です。平塚全体での体験型ツアーなど、地域と連携したインバウンド対応の可能性も探っていきたいと考えています。

・レストラン・ショップの再整備

委 員 リニューアル後のレストランやミュージアムショップのあり方はどうなるのか。

事務局 収益面だけでなく、美術館の「賑わい」を作る上で非常に重要と考えています。人件費や採算性の課題はありますが、親子連れが気軽に利用できるカフェや、地場産品のアピール、あるいは可動式のショップなど、市民のニーズに合った形をこの 2 年間でじっくり検討します。博物館・図書館を含めたエリア全体の活性化に繋がりたいと考えています。

(3) その他 なし

■閉 会 特別館長からあいさつ。
次回は令和 9 年 1 月に開催予定。